

# 法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-27

## 第五百六十七号

---

(発行年 / Year)

1910

第五百六十七号

敷金取戻一件上告ノ書文

明治十七年九月廿日 上告  
年七月廿日 共官署

上告人 大坂市西区江戸堀南通 菅丁目地主

地寄附 富山縣手民小西空治代官人

東京府東村区日吉所十八番地寄附

新室敏士様

辨 柳 時 行

被告人 大坂府北区堂島東通二丁目四十三番

地寄附 京都府士族

岩 貞 敏

本件ハ始末ニ於テ被上告者ヨリ鷺尾英七ニ係リ起訴シタリ其訴旨ハ明治十六年七月廿日英七ノ所有ニ係ル家屋ヲ借渡ケ敷金トシテ

大 審 院

金七百円ヲ渡シ置シタルニ被家屋ハ明治廿

カル場合ナルヲ以テ右敷金ノ返却ヲ務求ス

ト云フニヤリ始末被上告英七八被家屋ハ借渡

ノ爲メ公賣トナリ小西空次ナル者ノ所有ト

ナリタリ左スレハ其敷金ノ家屋ニ付着スル

モノナルニ付今ニ至リ自分ヨリ返戻スヘキ

釋免之旨拒ミタリ

被上告人即上告者ノ拒弁ハ家屋旧所有者

鷺尾英七ト被上告人ノ間ニ契約シアル敷金

ノ事タル被家屋公賣ノ時ニ於テモ鷺尾英七

ヨリモ被上告人ヨリモ一言ノ申聞之ナキニ

依リ自分ハ毫モ知得タルモノニ非カレハ其

責ヲ受クヘキ道理ナニト云フニヤリ

大坂昭堂ノ所ニ於テ被敷至ハ引合人止告  
ニ於テ弁償スヘキ旨ノ裁判ヲ漫タリ上告人  
ハ右裁判ヲ不服ナリトシ被上告人ヲ相手取  
リ和解シ是亦敗訴ニタリ

大坂和解裁判所終堂裁判ノ要旨左ノ如シ

一被和解人<sup>被告</sup>ノ請求セシ敷金ハ明治十  
七年二月公賣前所明治十六年七月和解  
入<sup>被告</sup>カ借任セシ當初ニ在リテ引合人  
即チ其家屋ノ旧所有主ヘ差入タルモノ  
ナル事當然タル上ハ其家屋ノ公賣ニ先  
タテ和解人ハ良シヤ右敷金ノアリニ事  
ヲ兼知セカリシモノトスルモ敷金ノ性  
質タル素ヨリ借家ニ附着スルモノナレ

大 審 院

ハ之ヲ弁償スルノ義務ヲ負ハサルヲ得  
ス殊ニ實際上ヨリ考察ヲ下スモ公賣入  
札ニ際シテ現任者ニ向テ其ノ家屋賃借  
上ノ關係ヲ尋問セス輕易ニ入札スヘキ  
情由ハ万カアルヘキト氏思ハトサレハ  
之ヲ兼知セカリシトノ口實ハ確信ヲ覆  
キ難シ而シテ被和解人ニ於テ勸解及出  
訴ノ起頭旧所有主今般引合人ヲ被告ト  
セシモ直チニ和解人ハ所有權ノ移リタ  
ルトヲ確認シテ始末ニ参加セシメ正當  
ニ和解人ヨリ弁償ヲ漫クヘキ昭堂ノ所  
ヲ漫ケタル今日ニ至リ單ニ最初ヨリ被  
告トセカリシ手賃ノ不償意ヲ奇貨トシ

テ和訴人ハ本訴被和訴人ノ請求ヲ拒ム  
ノ理由ナケレハ結局略量ヲ索ノ趣リ相  
心得被和訴人ノ請求スル敷金七百圓ヲ  
弁償スヘシトノ事

上告人ハ右終量ヲ索ヲ不當トシ上告スル要  
旨有ノ如シ

升一第

凡ツ家屋敷金ナル者ハ其所有之家屋ヲ地  
人ニ貸貸スルニ當リ貸借主ヲシテ若干ノ  
金圓ヲ入買カシムルノ習慣ヲ云フモノニ  
シテ貸借主ニ於テ其家賃ヲ松フヘキ義務  
ヲ尽サハル時ノ爲メ豫メ差入レ置カシム  
ルノ保証金ニ過キサレハ乃チ貸借主ニ對

大審院

ニ貸借主ノ信用ヲ鞏固ナラシムルモノナ  
リ故ニ本按敷金ノ性質ヲ探究セハ貸借主  
ノ債權主トノ可ニ成立キタル終然タル社  
人權ノ要約ト云ハカルヘカラス且契約ノ  
本或チ尋又ルニ要約ノ結果即チ義務ナル  
モノハ結局者互相同ニ有効ナルモ他人ニ  
對シ其効力ヲ及スヘキモノニ非サレハ本  
按ナルモノハ敷金担保ノ責任ハ要人即  
チ上告者ニ非スニテ賣渡人即チ旧所有主  
其人ニ存スルヤ明瞭タリ況ニヤ本按家屋  
ハ公堂法ニ因テ升六号租ノ如リ今回ノ上  
告者及ニ被上告者ト俱ニ其當時所轄戸長  
役場ニ於テ公然入札ヲ爲シタルニ上告者

カ入札ハ最善ニ位スルヲ以テ才七号<sup>元</sup>ノ  
如ク公然所有權ヲ得タルニ於テハヤ是  
ル上劣者ハ責任者ニ非スレテ却テ旧所有  
主ニ存スルヲ然ルニ奉テ坐所ハ其家屋  
ノ公賣ニ先キ至テ却テ人ハ良シヤ右數金  
ノアリモ一ツ義也セカリシモノトスルモ  
我金ノ性質タル素ヨリ借家ニ附屬スルモ  
ノナレハ之ヲ弁償スル義務ヲ負ハサルヲ  
得ヌト客定ヲ下サレタリ之レ上劣者カ不  
當ノ才判ト思考スル所以ナリトノ奉

計二條

本件ノ家屋ニ對シ借債主カ數金ノ差入レ  
アルアルハ公賣ノ當時<sup>債主</sup>共ニ才<sup>債主</sup>及差

大審院

ノ差入レアルヲ公考セサルヘカラス然  
ルヲ至債債主及借債主ニ於テ之等ノ事實  
ヲ公考セサルニ於テハ客テカ入札人タル  
上劣者カ之ヲ去リ得ルノ道理イラシヤ故  
ニ當時才<sup>債主</sup>及差ノ差入アリシヤ否必スヘカ  
ラス衣レヤ我金ノ差入アルモノトスルモ  
之ヲ公考スルノ義務ハ借債主<sup>債主</sup>及借  
債主<sup>債主</sup>及人ノ責任ニ非ズレテ確クヤ況  
ヤ公然タル糶賣ニ於テ才<sup>債主</sup>及差ノ才<sup>債主</sup>  
及所ハ等<sup>債主</sup>ノ責任ヲ倒置シ現行者ニ向テ  
其家屋賃借上ノ貸借ヲ尋問セズ輕易ニ入  
札スヘキ情由ハ万ニアルヘキ事<sup>債主</sup>及差ハレ  
カレハ云々ト才<sup>債主</sup>定セラレタルハ誤審ナリ

トノ事

大空院、於テ之カ年以及未決ヲ其ツル左ノ如シ

弁 明

上巻計一條ヲ按スルニ本條ニ計レテハ友  
年ノ性類ハ对人権ナルヤ物上権ナルヤヲ  
辨明スルヲ緊要ナリトス抑モ友年ナルモ  
ノハ彼主カテノ家屋ヲ貸貸スルニ方リテ  
借主ヲシテ之ヲ差入レシムルノ權利ヲ有  
シ所後レノ時々之ヲ返還スヘキノ義務ヲ  
生スルモノニシテ家屋借、供スル家屋有  
ルヲ以テテ友年ノ権限アルモノナレハ家  
屋即チ物権、房スヘキノト論セサルヲ

大 審 院

得ス取ニ上巻人カ家屋ヲ貸得セニ上ハ  
友年ヲ被求レ得ル權モ之ヲ返還スヘキノ義  
務ヲ併セテ之ヲ有スルモノトス左スレハ  
私判友カ知許人上巻カ友年ノアリレテヲ  
兼おセサリシモノトスルモ友年ノ性類ハ  
家屋ニ特屬スルモノナレハ之ヲ兼僕スル  
ノ義務ヲ負ハサルヲ得ヌト申渡シタルハ  
不當ニ非ストス

上巻計二條ハ家屋カ(家屋)上ヨリ考察ヲ  
下スモ公賣入札ニ際シテ現任者ニ向テテ  
家屋賃借上ノ關係ヲ尋問セヌ輕易ニ入札  
スヘキ情由ハ万ニアルヘキ丁氏思ハレカ  
レハ云々トキ定ヤレニ計ニ公賣ノ當時貸

質主債供主ト共ニ重役生ノ差入アルヲ  
 公考セサルハカシナルニ重之レヲ去ルノ  
 責ハ上代人ヨリトサレシハ誤考ナリト  
 弁難又レ氏系由友ハ發生アリシヲ破上  
 代人等カ考知スヘキ歟ノ旨（凡人カ知得ハ難シ）シテ決セシニ  
 非スニテ只上代人カ發生アリシヲ考ラ  
 カリシト云シ口實ハ實際上ニ於テアルハ  
 カシナルノ理由ヲ示シタル迄ニテテ予稿  
 権上ノ規定サレハ之ニ對シ破上考入考ノ  
 考知セサリシト云フ揚ケ来テ弁償ノ義務  
 ヲ免シトスルモ系由友ト思想ヲ異ニス  
 云フニ過サレハ破毀ノ資料ト爲スヲ得サ  
 ルモノトス

大 審 院

考 決

公ノ理由ナルヲ以テ本上考ハ受取セサルモ  
 ノナリ